

追 悼 名 譽 会 員 西 山 弥 太 郎 君

本会名誉会員 西山弥太郎君は、昭和41年8月10日午後9時10分胃ガンのため神戸市川崎病院にて逝去されました。ここに同君の冥福を祈り、つつしんで哀悼の意を表します。



経 歴

大正8年7月東京帝国大学工学部鉄冶金学科卒業後、ただちに川崎重工業株式会社の前身である株式会社川崎造船所に入社し、もつぱら同社製鉄部門の拡充発展に努めたが、昭和25年8月川崎製鉄株式会社の分離独立とともに社長となられ、本年7月会長就任までこの重責に留められた。

この間ルップマン式平炉製鋼法の確立、平炉における大量酸素製鋼法の技術的基礎の確立、高性能珪素鋼板の製造などの技術的功績をたてた。さらに特筆すべきは同社千葉製鉄所の建設に当たって示された鉄鋼事業運営に対する卓越した功績でありこれが同社の飛躍的發展をもたらしたが、同時にわが国鉄鋼業の合理化計画に対する革新的な示唆となり、今日の目覚ましい成長と国際競争力の涵養の礎石をなしたものである。

本会に関しては昭和15年以来引続き評議員として会の発展に尽力された。昭和37年には渡辺義介賞を授けられ、昭和39年には名誉会員に推挙せられた。

弔 辞

日本鉄鋼協会名誉会員西山弥太郎君の訃報に接し、痛惜の念に堪えず謹んで弔辞を呈します。

君は夙にわが国鉄鋼業界の権威として千葉製鉄所の建設を初め鉄鋼事業の振興発展のため目覚ましき活躍を続けられ、その功績はまことに顕著なるものがありました。わが国の鉄鋼業が今日の如き隆昌を見るに至りましたことは、君のご尽力に負うところはなほただ大なるものがあることを信ずる者であります。

また、本会に対しましてはかねてより評議員として、また名誉会員として多年にわたり格段の支援を惜しまれず本会発展の基礎を築かれましたことは会員一同の深く感銘いたしておるところであります。

今やわが国の鉄鋼業界は一段の飛躍を要望せられ、君の指導の待望せられることいよいよ切なるの時、凶らずも病魔の冒すところとなり幽明境を異にして再び君の温容に接することを得ざるに至りましたことは遺憾の極みであります。

ここに日本鉄鋼協会を代表して君の遺された幾多の功績に対し深甚の敬意を表するとともに、謹みてご冥福を祈り哀悼の誠を捧げます。

昭和41年8月18日

社団法人日本鉄鋼協会会長 佐 野 幸 吉